



トキめき新潟国体

少年女子 準優勝(遠的)！！



<大西 少年女子監督の報告>

トキめき新潟国体を終えて

6月中旬に国体最終選考を終え、メンバーが決定したもののまほろば総体の準備運営のため国体強化練習開始が遅くなり、十分な練習を積むことができない中で何とか近畿ブロックを通過しました。ブロック通過の喜びもつかの間、2学期が始まり少年女子チームが揃っての練習はわずかな期間しかできず、しかも遠的練習は数えるほどの練習日しかないまま新潟へと出発しました。

現地新潟での練習は近的中心的練習を行い、また総合開会式の後地元弓道場へ行き遅くまで調整を行いました。そして臨んだ近的予選では、決勝通過決定の競射にわずか1本届かず敗退が決まりました。無念の気持ちはチーム各自の胸にありましたが、すぐさま気持ちを切り替え、無念さを晴らすべく遠的の練習に向かいました。遠的の練習では、練習会場の混雑のため、数立ちの練習が限界であるため、引き方のポイントと的付けの確認を行い練習しました。

遠的競技の日、朝から天気予報の通り、風が強く吹き、練習会場では大きく矢が流されたり失速するなどするため、的付けの位置や高さの微調整を選手とともに分析し、数立ちのみ練習しました。その間、早い立ちの他チームの矢飛びを見ることで遠的本会場の風向きや影響の確認を行い、傾向を分析した結果、➤、

➤本会場の第1射場は大観覧席に近いこともありほとんど風の影響を受けないこと、第2射場では練習会場とは異なり、観覧席と射場の間から吹き抜ける強風、観覧席から距離があることによる不規則な風の流れることがわかりました。そこで練習会場では、とにかく、いくら矢が風に流されようが、的付けを正しく付けることを心がけ、矢の飛び方を確認することを指示し、遠的の予選に向かいました。

遠的予選では、第2射場ということで、大前、中立、落それぞれに的付けの位置方向の指示を行い、1本目の矢飛びを見た上での判断と対応をさらに指示し入場させました。ほぼ予想の通りの飛び方と修正を行い、一立目は51点、二立目は53点、合計104点という結果で、栃木チームと同点で並びましたが的中数で上回り、8位通過となりました。やはり、風の影響があるようで予選通過8チーム中、第1射場は6チーム、第2射場は2チームでした。

1回戦は山口チームと対戦し、62点对56点でしのぎ準決勝に駒を進め、広島チームと対戦し59点对52点で勝ち、決勝進出を果たしました。徳島チームとの決勝戦は、50点对50点で同点となりの的中数で、8中対7中で準優勝となりました。

監督・コーチ・選手の計7名がそれぞれの役割を果たし、連携協力した結果が今回の入賞につながり、6月の最終選考決定時に立てた「いいチームになること」という目標を達成できたのではないかと思います。選手5名中3名が2年生ということもあり、今後さらに修練を重ね、来年の千葉大会での活躍を期待したいと思います。

<藤岡 強化部長報告：成年男子 成年女子の結果>

残念ながら成年男子、成年女子共に遠的、近的の予選を通過することが出来ませんでした。

成年男子

近的 8中-5中 13中 28位
遠的 51点-64点 115点 23位

成年女子

近的 6中-5中 11中 20位
遠的 36点-45点 81点 20位

現地まで応援に駆けつけてくださった皆様、速報や新聞などで応援して下さった皆様、応援有難うございました。11月3日には、来年度の国体選考の対象となる県近的選手権があります。奮ってご参加頂き盛り上げてくださいませ。

◆ 第42回全日本女子弓道選手権大会



深田 紀美子選手 8位入賞！！

〈深田選手 報告〉

標記大会が9月19日～21日に伊勢神宮弓道場で開催され、本年度は、県代表として出場させていただきました。

立ち順4番だったので、いちばん最初の立ちでした。こんなに早い立ちになったのは初めてでしたので、どうしようと思いました。でも、考え方によったらよいことがたくさんある、招集時間が常に決まっている、集中・緊張を保つ時間が他の人より短くてすむ、2回目を引き終わったら他の人の射を見ることができると思うことにしました。

全日本の会場には、他の大会とは違う独特な雰囲気が流れています。皆入賞してもおかしくないほどの選手ばかりです。気迫と自信が渦巻いているようです。この流れに飲み込まれないようにと思うのですが、そう思うところがもうすでに平常心ではないのかもしれないかもしれません。そんな中ですので、前日の的前稽古も、当日朝の巻き藁稽古も、自分の気持ちが落ち着いたと思えるだけにしました。後は何を考えていたのかあまり覚えていません。とにかく一手ずつ自分なりにきちんと引こうと思いました。

また、予選1回目が終わってから予選2回目まで約4時間、どのように過ごすか気持ちをいかに維持するかも大きな課題でした。

今回は、予選で4本的中することができ、20位で予選を通過することができました。決勝では、4本までは詰めることができましたが、その後、息切れ状態になってしまいました。10本を最後までちゃんと引けますようにという思いでした。結果は6中でした。

他の人の射を見て感じたことは、やはり「安定した射」「深い会」「鋭い離れ」が必要であるということです。➤

➤そして、体配の修練とともにこれらの充実に向かって日々の稽古を重ねたいと改めて思いました。全日出場の機会をいただいたこと、たくさんの皆さんに応援・励ましをいただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。



No. 8

私事で恐縮ですが、8月24日から、リンパ腫ということで、入院しておりました。リンパ腫の中では、治療方針も確立されており、寛解率の良いタイプと聞かされております。

2回目の治療を終えて、9月26日に退院いたしました。突然の事で、会員の皆様にはご心配をおかけいたしました。一段落したことをご報告いたします。

今後は外来で2～4クールの治療が予定されており、完全寛解に向けて、養生していきたいと思っております。いろいろとご迷惑をおかけするかと思いますが、よろしく願いいたします。

奈良県弓道連盟 会長 吉本清信



新五段 誕生

近畿連合審査会 (9月13日 田辺市)

次の7名の方々が合格されました。おめでとうございます。(敬称略)

(郡山) 赤松順次、森川昭、釜谷和恵、

安住奈津子、能島正和

(奈良) 丹波隆代、西尾奈津子

◆第62回 近畿高等学校弓道大会 団体県予選会

(9月13日(日)、橿原公苑弓道場)

11月1日に兵庫県明石市兵庫県立弓道場で行われる近畿高等学校弓道大会出場を目指し、女子15校28チーム、男子18校34チームが参加し団体予選が行われた。上位3校が出場権を手にした。結果は次の通り。

▽女子団体

- 1位 高田商業Bチーム(24射17中)
生田瑞貴 鶴谷直美 吉田理映子 竹花愛
2位 橿原高校Aチーム(24射17中)
藤田葵 樋口若奈 加藤美緒 鶴留彩花
3位 五條高校Aチーム(24射14中)
岡島優衣 松田清子 松村知妃呂 和田京子

▽男子団体

- 1位 畝傍高校Aチーム(24射18中)
楠田雄史 前川友裕 古郷楽 平井崇裕
2位 橿原高校Aチーム(24射17中)
丸和浩 高間光司 坂口賢 遠山雄人
3位 奈良高校Bチーム(24射17中)
青木公亮 金澤翔太 豊川敬悟 野村和豊

※前年度優勝の男子高田商業高校も近畿大会に出場する。

◆第62回 奈良県高等学校総合体育大会

(9月23日(水)、橿原公苑弓道場)

12・13日の北・南の予選を通過した個人女子22名・男子38名、団体女子16チーム・男子19チームで決勝が行われた。個人の入賞者男女各10名は、10月31日に兵庫県明石市兵庫県立弓道場で行われる近畿高等学校弓道大会に出場する。結果は次の通り。

▽女子個人

- ①岡島 優衣(五條)②鈴江 真美(奈良北)③細谷 真奈実(奈良北)④鶴留 彩花(橿原)⑤中家 安祐美(高田商)⑥塚本 紋女(郡山)⑦松村 有里子(奈良北)⑧今西 彩子(奈良)⑨伊藤 小町(平城)⑩城戸 ゆり子(奈良北)

▽男子個人

- ①山中 大輔(平城)②高間 光司(橿原)③杉田 智(王寺工)④楠田 雄史(畝傍)⑤森田 敦(王寺工)⑥竹森 健吾(法隆寺国際)⑦遠山 雄人(橿原)⑧畑生 昂俊(平城)⑨松尾 浩之(高田商)⑩山本 雅也(橿原)

▽女子団体

- ①高田商業B(堀川美奈、仲村友希、中家安祐美)
②五條A(松村知妃呂、松田清子、岡島優衣)
③奈良北E(木村早希、濱元栞、城戸ゆり子)
③橿原B(山本真悠子、菅沙央里、近藤慧子)

▽男子団体

- ①法隆寺国際B(川端 翼、佐伯 昌克、竹森 健吾、谷山 和三)
②高田商業A(栗村遼、本川侑樹、林田渉平)
③平城G(野村有治、山田凌輔、佐藤聖太)
③畝傍A(楠田雄史、前川友裕、古郷楽)

◆第22回全国健康福祉祭(北海道・札幌大会)

(愛称)ねんりんピック2009

平成21年9月5日(土)~7日(月)

会場 北海道北見市留辺苅町弓道館

参加者 都道府県・政令指定都市等
65チーム(約440名)

<弓道交流大会出場報告 清水監督>

スポーツ・文化・福祉の総合的な祭典にふさわしく、私たちの胸に数々の思い出と感動を頂いた大会となりました。暖かく迎えて下さった北海道民の皆様には深謝申し上げます。女性4名、男性1名(監督兼任)のチーム編成との報を受け、驚き!恐れ!不安感!を抱いたのは7月中旬でした。

【キーワード】“チームは「五人立ち」(四つ矢)のリズムミカルな運びと『和』『美』『協調』を基本に努めます”の基、練習に励み、協同調和し、人の和は大きくふくらみ危惧は払拭されました。尚、本大会唯一のチーム編成に、人々は好奇心旺盛でした。本番は平素の力を出し切れなくて誠に残念でありかつ申し訳なく存じております。

反省点として、更なる射技、射術の向上と“精神面のたくましさ強化”の必要性を皆で確認し合い、次々回の熊本大会へ夢をつなぐことと致しました。

レンタカーを利用、知床半島を縦断致しました、雄大な山々・サンセット・五湖・蝦夷鹿との遭遇・遊覧船上からの眺望等々に深い感動、感激の連続でした。

結びにあたり、連盟より壮行射会、激励金、等々ご配慮を頂戴しました、選手総意として心から厚く御礼申し上げます。

❖ご参考(ねんりんPR)

来年度以降の開催県名と年次は下記の通りです。

- 第23回 石川県 2010年
第24回 熊本県 2011年
第25回 宮城県・仙台市 2012年
第26回 高知県 2013年
第27回 栃木県 2014年
第28回 山口県 2015年
第29回 長崎県 2016年

速報

近畿大会 結果

(10月4日 大阪城公園道場)

女子団体 優勝!!!

矢野由紀子、吉岡瑞紀、林秀子

男子団体 3位: 山口亮二、蔵地隆文、矢野有吾

男子個人 5位: 綿松昭寛

◆全日、国体、ねんりんピック壮行射会

(2009.9.6 参加者 82名)

寒蟬が、秋の深みを知らせる中、残暑尚厳しく、陽射しは真夏の光を凌いだ。開会式では竹村副会長より「気の重要性」についてお話がありました。

矢渡し(射手竹村教士、第二介添山本錬士、第二介添小林錬士)の後、全日、遠的、国体、全国中学生大会制覇八木中の各選手による、演武が進む。隙のない体配の全日、気が漲る遠的、活力あふれる国体、大胆かつ指導に忠実な八木中の射と続く。それぞれに心に残る演武が披露された。

続いて国体選手を除く参加者による予選トーナメントが実施され4チームが決勝に歩を進めた。

予選突破チーム(敬称略)

- 第1位 矢野、綿松、藤岡
- 第2位 中西、福本、松澤
- 第3位 西中、阪中、竹村
- 第3位 中谷、中谷、白井

予選終了後、昼食を兼ねた壮行会が和やかに進み、多くの出席者から激励の言葉が送られた。また新司副会長からは突然のエールが送られ、更に場が盛り上がった。これを受け、出場各選手より、並々ならぬ決意披露があり、竹村副会長が励ましの言葉を送り締め括った。

決勝は国体4チーム、決勝進出4チームによりトーナメントが実施された。うち2チームは橿原弓道教室中谷チーム(中谷ク、中谷ノ、白井)、奈良市弓道教室中西チーム(中西、福本、松澤)が進み、常連チームに挑んだ。予選、決勝を通じて、その頑張りは、初々しく、さわやかな風を運んでくれました。

優勝決定戦は国体成年男子(長濱、新子、山口)と西中チーム(西中、阪中、竹村)の成年VS熟年の対決となった。

流石に、西中チームは朝からのご活躍もあってか氣息上がり、少しの休みを取られた。氣息整い勝負が進み国体チーム11中、西中チーム7中で成年が制した。

閉会式では「最後の最後まで諦めない気持ち」を大切に、竹村副会長の言葉をいただき、盛会裏に終了した。

(競技部 藤原)

◆ 国体近畿ブロック予選 (少年チーム)

<高塚監督報告 抜粋>

近畿ブロック予選は8月23日、大阪の万博記念公園弓道場で行われた。男子高塚監督、大前丸(2年)、中立高間(2年)、大落遠山(3年)と3名とも橿原高校のチーム、女子は大西監督、大前吉田(高田商3年)、中立加藤(橿原2年)、大落鶴留(橿原3年)のチームで臨んだ。

遠的は、男子が1回目8中と上位がねらえる位置につけた。その2回目は、力みからか7中、合計15中で4位タイと苦しいスタートとなった。女子は1回目9中とまずまずの出だいで、2回目は鶴留、吉田の両3年生が皆中し10中、合計19中で1位タイと、近的に向けて有利な位置につけた。

午後からの近的では、男子が1回目10中、2回目11中の計21中と高的中で1位となったが、遠的での出遅れが響き、総合3位で残念ながら本国体出場は叶わず。一方の女子は、1回目が5中と振るわず、2回目も苦しい流れでしたが、大落の鶴留が皆中し7中、計12中で何とか4位に入り、総合2位で本国体出場を決めた。

今年は奈良でインターハイがあった関係で、例年通りの練習はできなかったにも拘らず、男女ともチームワークがよく、男子控え選手の福本(王寺工3年)、山中(平城2年)、女子控え選手の峠谷(奈良大附属2年)、岡島(五條2年)も練習ではよきライバルとして競い合い、大会ではチームをしっかりサポートしてくれました。

最後になりましたが、少年チームをご指導下さった方々、遠方にもかかわらず応援に駆けつけて下さった方々に心より感謝申し上げます。

■ 8月地連審査の結果

第223回 8月30日 橿原公苑弓道場

合格者数は1級15名、2級5名、3級1名、初段45名、弐段3名、参段1名、四段は残念ながら該当者無しでした。合格された皆さんおめでとうございます。

例年からすれば受審者数が例年の同時期より、100名近く少ない審査会となりました。判定会議では、受審者の射技が低調であり、初段合格率が60%であったことから、審査員からは受審時期が早すぎる、指導者の研修不足なのは等の意見が出ていました。さらなる修練を願います。
(審査部)

編集者:先月に続き今月も従来の20日とは変則の発行日となりました。出来るだけ最新ニュースをタイミングよく届けようとの会長の意向に沿ったものです。久しぶりに盛りだくさんで、内容も濃いものになり担当としてはやりがいを感じている次第です。このペースでこれからもよろしくお願ひします。